

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：建築学科

資格：講師

氏名：森重 幸子

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画、建築設計、住宅計画、地域計画、建築社会システム	居住空間、町家、細街路、歴史的市街地、建築関連法制度
学位	最終学歴
修士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士（第322117号）	2006年2月20日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 木の住まい	共	2014年8月	日本ぐらし館	2011～2013年度にわたって行った「日本ぐらし館木の文化研究会」の活動をもとに、現在の木造住宅をめぐる諸問題に関するレポートとともに、これからの「木の住まい」への提言を行っている。 担当部分：第Ⅲ部木の住まいのつくり手の今と今後「工務店をとりまく背景」 pp.166-177
2. RURAL AND URBAN SUSTAINABILITY GOVERNANCE	共	2014年4月	United Nations University Press	都市および農村の持続可能性をテーマに、建築・都市計画と経済学の研究者がそれぞれのフィールドをもとにした知見を報告している。 担当部分：Part3 Case Studies-Urban Sustainability Chapter13 'Environmental governance of dwellings of a small-scale community along a historical alley in Kyoto City', pp.216-224
3. 現代集合住宅のリ・デザイン-事例で読む「ひと・時間・空間」の計画	共	2010年9月	彰国社	集合住宅の豊富な事例を紹介し、研究者による調査データを交えて解説を行うもの。学生のみならず、実務者が企画・設計を行う際の参考文献としても意図されている。 担当部分：07住戸・住棟の再生と活用 7-4「歴史的建築物のリノベーション 定期借地権付きコーポラティブ方式による再生-求道學舎リノベーション」 92-93頁
2 学位論文				
1. コモンズの視点から見たマスメハウジング期公的団地の再生に関する研究 市街地の住環境におけるコモンズ概念の検討を通じて	単	2002年2月	京都大学大学院修士論文	共同利用資源の持続的な利用と管理についての知見であるコモンズ論を市街地の住環境に適用する理論的な検討を行った上で、マスメハウジング期の公的団地のオープンスペースの管理における課題をコモンズ論の観点から分析している。
3 学術論文				
1. 京都市都心部の幹線道路沿いの細街路と高層建築物の関係	共	2015年7月	日本建築学会計画系論文集 第80巻 第713号	細街路沿いの歴史的な景観の維持保全に関する知見を与えることを目的に、京都市都心部の幹線道路沿いに位置する細街路に高層建築物が立地する事例を悉皆調査し、細街路と高層建築物の関係性の分析を行っている。その結果、細街路側からの形態規制の必要性を指摘している。 担当部分：論文全般を担当、著者：森重幸子、高田

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 住まい手が主体的に行う京町家の公開の実態と課題 生活文化を含めた京町家の保全・再生に関する研究	共	2012年2月	日本建築学会計画系論文集 第77巻 第672号	光雄、前田昌弘、大森聡子 住まい手自身が関わって公開事業を行っている大型の京町家を対象に、運営する住まい手への詳細なヒアリング調査を行い、公開事業の実態や、公開に至るまでの経緯を明らかにしている。その上で、各家において蓄積されてきた生活文化の維持保全の方法という視点からの課題を明らかにしている。 著者：鈴江悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎
3. ネパールにおける共同的空間管理システムに関する研究：仏教僧院を起源とする中庭型集住体を対象として	共	2012年	住総研研究論文集、No. 39	ネパール・カトマンズ盆地の世界遺産都市であるバタン旧市街地の複数の中庭が含まれる街区を対象とし、所有・利用・管理の実態とその主体関係の分析を行っている。所有と利用と管理が完全に一致したシステムよりも、複数の主体が多層的に関わる伝統的な共同的空間管理システムのほうが状況の変化に柔軟に対応できることを明らかにしている。 著者：サキヤラタ、高田光雄、森重幸子
4. Urban Renewal and Sustainability of Historical Urban Center - Case Study on Urban Center of Kyoto-	共	2009年4月	12th International Seminar de Forum UNESCO - University and Heritage	京都市都心部の街区の更新の状況を、町家の残存状況、建物用途、オープンスペースの分布等から示している。その上で、2007年9月に施行された新景観政策の可能性と課題について検討を行っている。 著者：MORISHIGE Sachiko, TAKADA Mitsuo, KOURA Hisako
5. 接道条件からみた歴史的市街地の持続可能性—「再建築不可」敷地の分布状況の分析を通して—	共	2009年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 4	京都市では袋路は建築基準法上の道路ではないとされることから、袋路にのみ面する敷地は「再建築不可」と呼ばれ建築行為が原則禁止となり多くの課題を抱えている。ここでは再建築不可敷地の分布傾向と具体的な立地の実態を明らかにし、課題を示している。 著者：森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊
6. 京都市都心部の袋路空間におけるコミュニティの実態と居住者の満足度—袋路空間内外の付き合い状況の分析を通して—	共	2008年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 3	袋路が集中する西陣地区を対象に、袋路沿いの居住者へのアンケート調査を行っている。袋路居住者同士はほぼ挨拶をする関係にあり、近所付き合いの状況に高い満足度を示している。一方で、付き合いは袋路単位で閉じているわけではなく、袋路外にも広がっていることを明らかにしている。 著者：森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、繪本啓太、小林彩子、柴崎耕平
7. 再生集合住宅の居住者による入居後の居住性評価—求道学舎リノベーションを対象として—	共	2008年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 3	1926年に竣工した歴史的建築物である求道学舎（武田五一設計、東京都文京区）は2006年にリノベーションされて集合住宅となっている。求道学舎の現居住者を対象に、入居後の居住性についてアンケートおよびヒアリングを行い、建物性能について個別の項目では不満があるものの、全体として高い満足度が得られていることを明らかにしている。 著者：高田光雄、森重幸子、丸川景子、李容圭、柴崎耕平、土井脩史
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 田の字地区内の細街路の属性 京都市都心部における細街路の現状 その1	共	2014年8月	日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集、F-1分冊（都市計画）	京都市の中心部である田の字地区に現存する細街路の悉皆調査を行い現状を整理したもの。細街路を通り抜けと袋路に大別し、さらに形状による分類および幅員の割合などから、中心部に存在する細街路の特徴を明らかにしている。 著者名：森重幸子、高田光雄、前田昌弘、大森聡子他5名。
2. 平成の京町家・市街地型集合住宅団地K町プロジェクト その1	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集、G-1分冊（建築デザイン）	著者らが設計を担当した歴史的な市街地における8戸の集合住宅団地の計画プロジェクトについて、配置計画を決定するまでの検討のプロセスを報告したもの。町家が立ち並ぶ密集した市街地において開発行為ができない条件のもとでの配置計画を検討している。 著者：村田真悟、森重幸子、高田光雄、安枝英俊、土井脩史。
3. 京都市都心部における不動産所有権の権利実態：相続承継問題から見た京町家の保全に関する研究 その3	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集、F-1分冊	町家が解体される理由の一つとして、相続を契機に住み継ぎが行われず解体売却が選択されるという実態がある。所有権が共有状態にある場合や登記が適切に行われていないなどといったことがその背景にあることから、ある特定地区の家屋の所有権の悉皆調査を行って実態を明らかにし傾向を分析している。 著者：生川慶一郎、森重幸子、高田光雄。
4. 地蔵盆の運営実態とその継続要因の考察：京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集、F-1分冊（都市計画）	都心部のコミュニティと地域運営に関する知見を得るため、京都で広く行われている地蔵盆に着目し、都心部の3学区合計55町内の地蔵盆の運営実態の調

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
向上に関する研究 その1				
5. 京町家の承継に対する所有者の意識：相続承継問題から見た京町家の保全に関する研究 その1	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集、F-1分冊（建築社会システム）	査を行った。8割以上の町内で地蔵盆を開催しており、多様な行事が行われていることを明らかにしている。 著者：前田昌弘、高田光雄、森重幸子、西野克裕 良好に管理されまちなみに寄与していると考えられる京町家の所有者を対象に、相続や次世代への承継についてのアンケート調査を実施。町家の保全意向や、引き継ぐ相手が決まっている割合が比較的高いものに対して、残したいが難しいと考えている所有者も多いことを明らかにしている。 著者：鈴江悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎
6. 堀川団地'やわらかい'まちづくり再生ビジョン その1	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集、G-1分冊（建築デザイン）	1950～53年に建設されたRC造3階建の市街地型公的団地である堀川団地の再生について検討し、地域のまちづくりの一部としての団地再生の方向性を、5つの柱によって具体的に提案、1つめの柱である「シナリオ・アプローチ」によって描く再生のプロセスを解説している。 著者：生川慶一郎、高田光雄、安枝英俊、森重幸子、土井脩史、宮野順子、石田洋輝
7. 京都市の中心部における歴史的細街路の変化と課題：膏葉辻子沿いの両側町・新釜座町のまちづくり活動を事例として	共	2011年7月	日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、F-1分冊（都市計画）	京都市のもっとも繁華な幹線道路の一つである四条通りに隣接する歴史的細街路「膏葉辻子」のまちなみの変化と、膏葉辻子沿いの町のまちづくり活動の流れを調査することにより、都心の歴史的な細街路が抱える課題を明らかにしている。 著者：森重幸子、高田光雄、安枝英俊
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. Tキリスト教会新築工事	共	2016年1月	大阪府高槻市	工事種別：新築、用途：キリスト教の教会、構造規模：鉄筋コンクリート造+木造3階建、敷地面積：251.82㎡、建築面積：121.50㎡、延床面積：321.43㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱
2. 「平成の京町家 東山八坂通」新築工事	共	2014年1月	京都府京都市東山区	工事種別：新築、用途：集合住宅、構造規模：木造在来軸組工法 地上2階建 二戸一棟4棟 総戸数8戸、敷地面積：1156.02㎡（隣接する共用庭含）、建築面積：504.77㎡、延床面積：928.71㎡、事業主法：建築基準法第86条一団地認定 区分所有型分譲、掲載誌：『日経アーキテクチャ』2014年7月25日号 事業主：株式会社ゼロ・コーポレーション、基本設計：京都大学高田研究室 HA+Gデザインオフィス 級建築士事務所、実施設計・施工：株式会社ゼロ・コーポレーション、受賞：2014年度日本不動産学会業績賞、2015年度都市住宅学会業績賞
3. 「バリ・ウブドの家」新築工事	共	2013年8月	インドネシア、バリ州、ギニャール県ウブド郡	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造2階建1棟、鉄筋コンクリート造1階建1棟、敷地面積：825㎡、建築面積：188.28㎡、延床面積：249.08㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱
4. 「深草の町家」改修工事	単	2010年10月	京都府京都市伏見区	工事種別：改修、用途：専用住宅、構造規模：木造伝統構法 地上2階、改修工事範囲床面積：106.50㎡ 業務内容：耐震診断、改修設計、工事監理
5. 「馬町の家」新築工事	共	2008年10月	京都府京都市東山区	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：木造在来軸組工法 地上2階、敷地面積：194.73㎡、建築面積：88.07㎡、延床面積：151.91㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱
6. 「チャペル アクティス」新築工事	共	2005年10月	京都府京都市上京区	工事種別：新築、用途：集会場、構造規模：鉄筋コンクリート造 地下1階地上2階、延床面積：459.28㎡、掲載誌：『CASA BRUTAS』12.2005、『THE ARCHITECTURAL REVIEW』JULY.2006 （設計事務所勤務時の担当作品）
7. 「風船（I邸）」新築工事	共	2004年11月	大阪府吹田市	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造+鉄骨造 地下1階地上3階、延床面積：172.68㎡、掲載誌：『GA HOUSE PROJECT』2004、『MODERN LIVING』NO.165、『hinge』vol.121、『住まい』vol.35 （設計事務所勤務時の担当作品）
8. 「帝塚山の家（K邸）」新築工事	共	2003年12月	大阪府大阪市	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造 地上3階、延床面積：115.97㎡、掲載誌：『GA HOUSE』84、『COMPACT HOUSES』 （設計事務所勤務時の担当作品）
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
1. 京町家の住み継ぎを支援する承継システムに関する研究 所有者の意思を尊重する承継支援型民事信託の試行的実施	共	2014年6月	一般財団法人住総研2014年度研究助成	研究代表者：高田光雄、研究分担者：森重幸子、生川慶一郎
2. 幹線道路に隣接する細街路の都市計画上の課題～「歴史的細街路」の維持保全に向けて～	共	2013年6月	大学コンソーシアム京都2013年度未来の京都創造研究事業	研究代表者：森重幸子、研究分担者：前田昌弘
3. 京都市都心部における「歴史細街路」の維持保全に関する研究	単	2013年12月	公益財団法人リクシル住生活財団2013年度調査研究助成	
4. 歴史的細街路の保全・再生に向けた制度設計に関する研究	単	2012年5月	2012年度文部科学省科学研究費（奨励研究）	
5. ネパールにおける共同的空間管理システムに関する研究－仏教僧院を起源とする中庭型集住体を対象として	共	2011年6月	一般財団法人住総研2011年度研究助成	研究代表者：サキャラタ、研究分担者：高田光雄、森重幸子

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2015年4月～現在	日本建築学会 選択可能な市街地環境整備とインナーコミュニティまちづくり小委員会 委員
2. 2014年4月～現在	日本建築学会 コミュニティ居住小委員会 委員
3. 2012年4月2014年3月	日本建築学会 地域居住小委員会 委員
4. 2010年9月～現在	公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 専門家（コンサルタント及びコーディネーター）